

デビュー50周年記念

前橋汀子

クリスマス・コンサート 祈り-アヴェ・マリア

ベートーヴェン:

ヴァイオリン・ソナタ第5番 へ長調「スプリング」op.24

バッハ:

無伴奏パルティータ第2番 ニ短調 BWV1004

ヴェニシアフスキ:

モスクワの思い出

ドヴォルザーク:

わが母の教え給いし歌

ヘンデル:

「テ・デウム」より 祈り

シューベルト:

アヴェ・マリア

グノー:

アヴェ・マリア

マスネ:

タイスの瞑想曲

クライスラー:

愛の喜び

サン＝サーンス:

序奏とロンド・カプリチオーソ

ピアノ: 阿部裕之

2012. **12/25** (火)

7:00PM開演(6:30PM開場)

京都コンサートホール

小ホール(アンサンブルホール ムラタ)

Tuesday Evening, December 25, 2012, at 7:00, Kyoto Concert Hall (Ensemble Hall Murata)

●京都市左京区下鴨半木町1-26/地下鉄烏丸線「北山」駅下車、③・①出口から南へ徒歩約3分

¥4,500 (全席指定/消費税込) ●2012.9/1(土)10:00AM発売

◎京都コンサートホール 075-711-3231

◎チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード:179-441]

◎ローソンチケット 0570-00-0407/0570-08-4005 [Lコード:56571]

◎CNプレイガイド 0570-08-9990

◎セブンチケット [セブンコード:019-109] ※セブン-イレブン店頭販売のみ

◎イープラス <http://eplus.jp/otonowa/>

◎高島屋京都店7Fチケットショップ 075-221-8811(代表) ※店頭販売のみ

◎otonowa 075-252-8255 ※電話予約のみ

※未就学児童の同伴・入場はお断りします

※都合により曲目・曲順が変更になる場合があります

※0570で始まる電話番号は一部の携帯電話・IP電話、PHSからはご利用頂けません

主催: otonowa

後援: 京都コンサートホール(公益財団法人 京都市音楽芸術文化振興財団)

お問合せ: otonowa 075-252-8255 [10:00AM-6:30PM/日曜・祝日休み 土曜不定休] <http://www.otonowa.co.jp>

円熟の響きと共に贈る、珠玉のヴァイオリン名曲集!



デビュー50周年記念

前橋汀子

クリスマス・コンサート 祈り-アヴェ・マリア

50th Anniversary Teiko Maehashi Christmas Concert "Prayer - Ave Maria"



12月25日、京都コンサートホール・小ホールでのヴァイオリン・リサイタル「クリスマス・コンサート 祈り-アヴェ・マリア」を心待ちにしています。京都で演奏するのは本当に久しぶりです。特に今回は冬の京都のこの季節、クリスマスと伝統の年の瀬を迎えるコンサートなので、わたくしもその雰囲気と風情の中での演奏を楽しみにしています。わたくしが初めて京都で演奏したのは、中学生の時でした。京都市交響楽団と、その当時の常任指揮者だったドイツ人のカール・チェリウスさんの指揮で、ベートーヴェンのヴァイオリン・コンツェルトを弾きました。わたくしが京都で演奏することになった時、若き日に仏教美術や仏教建築に憧れ強く惹かれ、東京の高校から京都の大学の史学部に進んだ父は、母を伴い一緒に来てあちこちを案内してくれました。その時に、オーバー姿で八坂神社をバックに撮ったわたくしの写真が手元にあります。実は、この時の演奏には後日談が！

わたくしがヨーロッパに住んでいて、ドイツのライン河沿いの町コブレンツで演奏した時、カール・チェリウスさんが聴きにきて下さいました。ご自分の指揮で、わたくしが演奏した京都のベートーヴェンのヴァイオリン・コンツェルトのプログラムを持参され、大好きだった京都の思い出を懐かしそうに語っておられました。

今回のプログラム「クリスマス・コンサート 祈り-アヴェ・マリア」にふさわしい曲想を、と前半はベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ第5番「スプリング」とバッハの無伴奏パルティータ、後半はロシア民謡の「赤いサラファン」のメロディーの「モスクワの思い出」、ヘンデルの「テ・デウム」から「祈り」、そしてシューベルトとグノーの「アヴェ・マリア」等々で構成しました。

皆様にはどうぞ、この「クリスマス・コンサート 祈り-アヴェ・マリア」を聴いてひとときをお過ごし頂ければ嬉しいです。

前橋汀子

前橋汀子(ヴァイオリン) Teiko MAEHASHI, Violin

2012年に演奏活動50周年を迎えた前橋汀子は、日本を代表する国際的ヴァイオリニストとして、その優雅さと円熟味に溢れる演奏で、多くの聴衆を魅了してやまない。5歳より小野アンナ、斎藤秀雄、ジャンヌ・イスナールに学んだのち、17歳で旧ソ連国立レニングラード音楽院(現サンクトペテルブルク音楽院)創立100年記念の一環として、日本人初の留学生に選ばれ、ミハイル・ヴァイマンのもとで3年間学んだ。

その後、ニューヨーク・ジュリアード音楽院でロバート・マン、ドロシー・デレイ等の指導を受け、さらにスイスでヨーゼフ・シゲティ、ナタン・ミルシテインの薫陶を受けた。その後、国内外で活発な演奏活動を展開、ベルリン・フィル、英ロイヤル・フィル、フランス国立管、クレーブランド管、イスラエル・フィル等を始めとする世界中のオーケストラと、ストコフスキー、メータ、ロストロポーヴィチ、ケンペ、サヴァリッシュ、マズア、小澤征爾ほか多彩なマエストロたちと協演している。室内楽の分野でも、ピアノのイェルク・デームス、クリストフ・エッセンバッハ、アナトーリ・ウゴルスキ等の名手たちと共演している。

また、レニングラードの変貌ぶりをレポートしたNHKテレビ番組『前橋汀子・わが心の旅』は多くの人々に感動を与えた。

近年小品を中心とした親しみやすいプログラムによるリサイタルを全国各地で展開、2005年から年1回東京・サントリーホールで開催している「アフタヌーン・コンサート」は大好評を博している。一方、J.S.バッハの「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ&パルティータ」全曲演奏会、ベートーヴェン:ヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会など、本格的なプログラムにも積極的に取り組んでいる。

2004年日本芸術院賞、2007年第37回エクソシモン・モビル音楽賞洋楽部門本賞受賞。2011年春の紫綬褒章受章。

使用楽器は1736年製作のデル・ジェス・グアルネリウス。

阿部裕之(ピアノ) Hiroyuki ABE, Piano

第49回日本音楽コンクールピアノ部門第1位。東京藝術大学附属高校及び東京藝術大学音楽学部を卒業。同大学院修了後、ドイツ、フランスで研鑽を積む。パリではM.ラヴェルの直弟子であるV.ペルルミュテール氏に師事し、M.ラヴェルの作品を集中的に学んでいる。

1983年フランス・エピナール国際ピアノコンクールで銀メダル受賞。ドイツ国立カールスルーエ音楽大学修了、東京フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団他との協演やNHK、ニッポン放送及び南西ドイツ放送の放送録音など幅広く活動を行う。さらに室内楽演奏にも取り組み、前橋汀子、堀米ゆず子、上村昇、R.キュヒルやライブソビエト弦楽四重奏団らとの共演も行っている。

鋭い感性と多彩な音色のパレットから描き出される独特の響きと奥深い音楽は、高く評価されている。1997年および2008年に、ラヴェルのピアノ曲全曲演奏会を開催。従来の解釈とはひと味異なる新鮮な演奏で新しいラヴェルの世界を表現。また、CD「阿部裕之・プレイズラヴェル」をリリース。NHK BSハイビジョン番組「びあのピアノ」ではラヴェル作品で出演するなどラヴェル作品の演奏には定評がある。

これまでに日本音楽コンクールをはじめ全日本学生音楽コンクール、名古屋国際音楽コンクール、宝塚ベガコンクールなどの審査を歴任。第12回京都府文化賞受賞。日本演奏連盟関西委員。京都市立芸術大学教授として後進の指導にもあたっている。

